



最初にお読みください

# CentreCOM® AR550Sリリースノート

この度は、CentreCOM AR550Sをお買いあげいただき誠にありがとうございました。本リリースノートは、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ソフトウェアバージョン 2.7.1

### 2 本バージョンでの制限事項・注意事項

ソフトウェアバージョン 2.7.1 には、以下の制限事項や注意事項があります。

#### 2.1 グラフィカル・ユーザー・インターフェース (Web GUI)

 **参照** 「取扱説明書」 / 「付録」 / 「Web GUI」

- GUI 画面ではマルチバイト文字を入力しないでください。入力してもエラーメッセージは表示されませんのでご注意ください。
- GUI 画面では LAN 側インターフェース (vlan1) の IP アドレスを異なるサブネットの IP アドレスに変更しないでください。変更すると GUI に再接続できなくなることがあります。接続できなくなったときは、ルーターを再起動して変更前の IP アドレスに接続しなおすが、約 10 分待ってから変更後の IP アドレスに接続しなおしてください。
- 「クイックスタート」→「WAN」画面の「DNS リレーを使用する」にチェックを付けたときは、DNS サーバーのアドレスも入力してください。アドレスが未入力でもエラーメッセージは表示されませんのでご注意ください。
- 「クイックスタート」→「WAN」画面で PPPoE 接続の設定をすると、PPPoE インターフェースのリンク状態監視方式が「LQR」(Link Quality Reporting) になります。この設定では、インターネットサービスプロバイダー (ISP) 側の機器が LQR をサポートしていない場合にリンクダウンを検出できず、PPPoE の自動再接続機能が働かませんので、「設定」→「レイヤー 2」→「PPP」画面で「リンク状態の監視」方式を「Echo」(LCP Echo) に変更してください。

#### 2.2 トリガー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」

- メモリトリガー (CREATE/SET TRIGGER MEMORY コマンド) は未サポートです。

